

廃棄物減量等推進員を中心とする「ごみ減量市民リーダー」の養成

活動地域  日本全域

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

連続セミナー受講者数 **259人**

ごみ減量自治体会議参加団体数 **21団体**

今年度計画の達成度 **60%**

目標達成度 **75%**



ごみ減量市民リーダー養成連続セミナー

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

連続セミナーでは、ゼロ・ウェイスト宣言自治体によるシンポジウムやイタリアのゼロ・ウェイスト活動家の講演会を企画。貴重な機会となったが、日程調整等が難しかった。

■ 工夫した点

プラスチックごみをテーマとする出前研修会では、プラスチック製の製品しかないと思い込んでいても実際は違うことを知ってもらうため、ヘチマタワシなどの現物を用意した。

課題

全国で約半数の市町村が廃棄物減量等推進員の制度を運用しているが、活動がごみステーションの管理に限定されていることが多く、主体的なごみ減量活動がなされていない。

目標

廃棄物減量等推進員をはじめとするごみ減量市民リーダーが、ごみ減量・3Rの推進に主体的に取り組み、地域を巻き込んでいくような人材になる。

活動内容と成果

①「ゼロ・ウェイストへの道」をテーマに全5回の「ごみ減量市民リーダー養成連続セミナー」を開催し、延べ259人の参加者があった②関西と東海の4か所で、廃棄物減量等推進員等を対象に、講義とグループワークを組み合わせ「ワークショップ型出前研修会」を開催した③東北と関東の2地域で「ごみ減量自治体会議」を開催した④全国の20団体の廃棄物減量等推進員等の活動をまとめた事例集を作成した
以上の活動に参加した自治体では、廃棄物減量等推進員の主体的な活動の重要性を共有できた。



熊取町でのワークショップ型出前研修会

全助成期間の活動を振り返って

この3年間に、ごみをめぐる状況はより逼迫してきたと感じる。また、SDGsでごみの大幅削減や食品廃棄物の半減が明記されるなど、ごみ減量は世界中の人々の約束となった。そんな中、ごみ減量の市民リーダーを育てることの重要性はますます高まっており、その意味では時宜に合った取組みであったと自負している。ただ、活動の面的な広がりや推進員の活動に対する行政の支援のあり方など、課題もまた明確になった。



廃棄物減量等推進員活動の手引きと事例集

〒542-0066
大阪府大阪市中央区瓦屋町1-4-2 コシカイカン2階
電話：06-6765-1112
E-mail：info@osaka-gomigen.net
HP：http://osaka-gomigen.net/



今後の展望

ごみ問題について体系的に学ぶ機会は、市民にとっても行政にとっても貴重であり、3年間継続した「ごみ減量市民リーダー養成連続セミナー」は何らかの形で継続していきたい。また、ワークショップ型出前講座は推進員の活動を活性化させるための有効なモデルとして確立することができたと感じているので、この方式を各地域の自治体と連携して広げていきたい。